

# 令和5年度図書館事業実績評価

守谷中央図書館

令和6年10月

## 評価について

令和4年度実績に対し、令和5年度の図書館事業における実績評価を実施し、検証しました。

評価内容は、運営基本方針の実現に向けた活動計画の5項目における自己評価及び総括としました。

## 運営基本方針の実現に向けた活動計画

- 1 資料、情報提供の充実
- 2 子どもの読書活動の推進
- 3 市民協働によるサービスの充実
- 4 多様なニーズに応えるサービスの提供
- 5 信頼できる図書館運営

## 総 括

令和5年5月8日に、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行されたことに伴い、図書館のあらゆる面において、コロナ禍以前の形に戻した運営を実施し、多くの方に図書館を利用していただくことができました。しかしながら、郷州公民館が改修工事(10月着工)に伴い休館となったため、資料貸出点数は前年度を大きく下回りました。郷州公民館休館の対応として、9月2日(土)から郷州小学校内のげんきサロンみずき野に郷州公民館図書室臨時窓口を開設し、予約資料の貸出等を実施しました。曜日・時間が限定される中、臨時窓口での貸出数は、郷州公民館図書室の通常期の約25%の数値となり、地域の方にご利用いただくことができた結果と言えます。

資料情報提供の充実については、電子図書館のコンテンツ購入費を増額し、一般向けのタイトル購入とともに、児童書読み放題パック(アクセス制限なし)を購入しました。更に、利用者の拡大を図るため、一般向けには電子図書館使い方講座の開催及び一般フロアにおいてサービス周知のPOP掲示、児童・生徒向けには、図書館新聞(児童・生徒のための図書館広報紙)を号外で発行しました。これらの取組により、電子図書館全体の閲覧数は、昨年度5,694回から6,570回となる大きな成果が得られました。

学校図書館との連携業務においては、小・中学校へのブックパックの貸出及び団体貸出を促進しました。団体貸出においては、前年度実績の1,938冊から2,365冊に増加しました。また、図書館職員によるブックトークは、前年度実績の24回から35回に増加するなど、学校への周知が浸透してきた結果が出ており、今後も学校図書館支援の取組み等について、継続した周知を図っていきたいと考えます。

子どもの読書推進においては、「第四次守谷市子ども読書活動推進計画」に基づき、おはなしボランティアとの協働により、子どもが絵本やおはなしに親しむ機会の増加に努めました。また、紙芝居講座、エプロンシアター講座等を開催し、おはなしボランティアの育成を図るとともに、新規ボランティア獲得のために、おはなしボランティア養成講座を開催しました。

今後も、あらゆる利用に対応できる環境を整備し、図書館サービスの向上に努めてまいります。

図書館事業実績評価

1 市民の求める図書や情報の収集、提供、保存

評価基準	R4年度実績	R5年度実績	前年比
図書資料数	426,570冊	426,832冊	↗
視聴覚資料数	18,452点	18,667点	↗
雑誌タイトル数	330タイトル	330タイトル	→
新聞タイトル数	31紙	32紙	↗
蔵書冊数（市民一人当たり）	6.1冊	6.0冊	↘
資料回転率（図書）	2.1回	2.0回	↘
地域・行政資料の受入冊数	170冊	180冊	↗
寄贈資料受入冊数	839冊	793冊	↘
地域資料等のデジタル化（ADEAC作成件数）	3件	5件	↗
宅配サービス等登録者数	3人	3人	→
宅配サービス等貸出点数	320点	272点	↘
外国語資料の受入冊数	71冊	61冊	↘
レファレンス受付件数	7,673回	6,550回	↘
県立図書館，県内公共図書館との相互貸借数	2,505冊	2,334冊	↘
国立国会図書館，他県立図書館等との相互貸借数	269冊	259冊	↘

自己評価

- ・資料の購入と除籍を適切に実施した結果、昨年度の資料数とほぼ同数となりました。郷州公民館改修工事により、9月から図書室を休室し、臨時窓口での運営となったことにより、資料回転率については若干の減少がありました。
- ・地域・行政資料の受入冊数が増加しましたが、寄贈資料、外国語資料の受入冊数はやや減少しました。
- ・ADEAC（デジタルアーカイブ）は、『守谷現代史』、『守谷総鎮守八坂神社の祇園祭』、『社会科副読本』、『守谷市都市計画図』『1975年町制20周年記念 守谷』を公開しました。
- ・レファレンス受付件数が大幅に減少しました。減少の理由の一つとしては、受付件数の入力方法が手動のため、入力忘れ等があった可能性も考えられます。利用者から、窓口対応について苦情等も寄せられておらず、これまでどおりの対応ができていたと判断しています。
- ・相互貸借は、県内、県外公共図書館ともに例年どおり実施しました。

2 未来を担う子どもたちの読書活動の推進と、学習活動の支援

評価基準	R4年度実績	R5年度実績	前年比
読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施	0回	1回	↗
子ども向け行事開催数	15回	16回	↗
子ども向けの資料案内の作成数	11件	12件	↗
図書館職員（スタッフ）によるおはなし会の実施回数	6回	6回	→
ボランティアによるおはなし会の実施回数	152回	226回	↗
学校への団体貸出冊数	5,838冊	6,265冊	↗
学校図書館（相互利用）への貸出冊数	138冊	160冊	↗
ブックトークの実施数	24回	35回	↗

自己評価

【子どもの読書活動の推進】

- ・子ども読書週間に絵本作家講演会「塚本やすしと遊びまショー」を開催しました。コロナ禍の影響により、絵本作家講演会は令和元年以来の開催となったこともあり、大変多くの方にご来場いただき、大好評でした。
- ・子ども向け行事においては、「英語のおはなし会(国際交流員による)」「小学生一日司書」「読書感想文書き方教室&ブックトーク」「図書館ナイトツアー」「○○を潰せ」「ぬいぐるみのおとまり会」等を開催し、小さな子どもから学童まで幅広い年齢層の参加がありました。中でも、図書館ナイトツアーとぬいぐるみのおとまり会は応募者が多数ありました。
- ・子ども向けの資料案内の作成数が昨年度より1増加しているのは、電子図書館閲覧者数を増加させる取組として、児童・生徒向けに、図書館新聞（児童・生徒のための図書館広報紙）を号外で発行したことによるものです。
- ・昨年度に引続き、市民活動支援センターと共催で、「わんちゃんと一緒に読書」を開催しました。また、守谷市教育委員会教育指導課と連携し、守谷市に勤務するALTによる英語のおはなし会を開催しました。
- ・おはなし会については、新たなボランティアの加入やコロナ禍による制限がほぼ解除されたことにより、開催回数が昨年度の152回から226回に大幅に増えました。

【中央図書館との連携による学校図書館の充実】

- ・小・中学校へのブックパックを含む団体貸出は、昨年度実績の5,838冊から約400冊増加し6,265冊となりました。
- ・ブックトークは、昨年度の24回から35回へと増加しました。
- ・学校図書館（相互利用）への貸出冊数は、昨年度実績の138冊から160冊となりました。学校図書館と中央図書館の連携により、学校図書館におけるリクエストへの対応において、中央図書館の資料が活発に利用されていることがうかがえます。中央図書館の学校図書館担当が、児童・生徒のために図書館で購入すべき資料を把握し、適切な選書に努めている結果と言えます。

3 市民との協働により、市民が集い、学び、活躍できる場の整備

評価基準	R4年度実績	R5年度実績	前年比
図書館ボランティア登録数	19団体	19団体	→
ボランティアとの協働事業実施回数	11回	10回	↗
おはなしボランティア養成講座及び研修等の実施回数	4回	4回	→
図書館ボランティア連絡会開催回数	3回	2回	↗
一般向け講演会，講座等の実施回数	5回	6回	↗
展示会の開催回数	9回	9回	→

自己評価

・登録ボランティア数に変更はありませんでしたが、おはなしボランティアにおいて1団体の脱退と1団体の新規加入がありました。新規加入団体は、令和5年度に開催したおはなしボランティア養成講座の受講生により結成された団体です。おはなしボランティア養成講座は、昨年度に引続き、和久田み晴氏を講師にお迎えし、おはなしボランティアを目指したい方々に、語りの基礎等をご指導いただきました。講師のお人柄と熱心な指導が大変好評で、ボランティアグループ結成にもご尽力いただきました。

・ボランティアとの協働事業も積極的に実施し、新規事業として、老いも若きも読書会による「ちょっと昔のお兄さんお姉さんが戦争を語る」を開催しました。

・現ボランティアの育成と、新たなボランティアの獲得を目的として、「紙芝居講座」「エプロンシアター講座」「おはなしを楽しむ講座」「おはなしボランティア養成講座」を開催しました。「おはなしを楽しむ講座」は、ボランティアからのご紹介により、藤田浩子氏を講師にお迎えして開催することができました。お手玉を使った遊びや手遊び、参加型の遊びを体験する等、実践的な内容とともに、経験豊かなお話を伺うことができ、参加者に大変好評でした。

・講演会・講座等については、「野菜作りのおもしろ話」「牧野富太郎と植物を観る眼」「図書館を知る講座 図書館通になろう」「電子図書館使い方講座」等を開催しました。連続テレビ小説放映終了直後ということもあり、「牧野富太郎と植物を観る眼」は53人という大変多くの方にご参加いただきました。

・展示会においては、ボランティア、市民等との協働により、市内で活躍するサークルのフォトクラブ写遊、守谷平和の会、守谷ネイチャーライフによる展示、守谷ひなまつり実行委員会による「第12回守谷ひなまつり」を実施しました。また、ブックスタート開始から20年を記念して、「ブックスタート20周年記念」展を開催しました。ブックスタートに参加した市民からブックスタートにまつわるエピソードやボランティアへのメッセージを募集し、寄せられた内容から、手渡す側と受取る側双方が、かけがえのないひと時を共有していることがわかりました。

4 多様な利用者ニーズに応えるサービスの提供

評価基準	R4年度実績	R5年度実績	前年比
開館日数	343日	344日	↗
新規登録者数	1,683人	1,360人	↘
来館者数	248,982人	259,814人	↗
貸出点数（全館 個人）	964,984点	931,251点	↘
貸出利用者数	227,937人	217,199人	↘
市民一人当たり貸出数（全資料）	13.7点	13.2点	↘
市民一人当たり貸出数（図書）	12.7冊	12.1冊	↘
予約・リクエスト受付件数	239,989件	232,537件	↘
団体貸出数（学校以外）	5,365冊	5,538冊	↗
インターネット端末利用回数	231回	283回	↗
電子図書館アクセス数(図書+雑誌) ※1	6,614件	7,580件	↗
電子図書館閲覧数(図書)	5,694件	6,570件	↗
ナクソス・ミュージックライブラリー ログイン回数	2,134回	1,732回	↘
育児コンシェルジュ利用数（利用項目合計）	1,113回	1,011回	↘
読書応援タイム（託児サービス）利用数	300人	425人	↗
書籍消毒機利用回数（全館合計）	31,214回	23,870回	↘

※1 電子図書館アクセス数を追加しました。

自己評価

・9月から郷州公民館図書室が臨時窓口による運営となったことに伴い、新規登録者数、貸出点数、貸出利用者数、市民一人当たり貸出数が減少しました。しかし、貸出に伴う数値が減少したことに反し、来館者数が大幅に増加しました。このような傾向は昨年にも見られており、図書館に求める利用者のニーズが多様化していることが伺えます。来年度から図書館の大規模改修工事に着手する予定ですが、新たな空間・機能を付加し、誰もが足を運びたい図書館を目指して設計業務に取り組んでいます。

・電子図書において、新たに児童書読み放題パックを購入・提供しました。また、電子図書館の閲覧者数を増加させる取組として、一般向けには電子図書館使い方講座の開催及び一般フロアにおいてサービス周知のPOP掲示、児童・生徒向けには、図書館新聞（児童・生徒のための図書館広報紙）を号外で発行しました。昨年度と比較すると、電子図書館全体の閲覧数は、5,694回から6,570回へ大幅に増加しました。

・読書応援タイムの利用数が、昨年度より大幅に増加しました。育児コンシェルジュサービスの利用を目的に来館する利用者が一定数あり、コンシェルジュとの子育てに関する会話や本の読み聞かせの時間を持つことで、リフレッシュできるというご意見を複数いただいています。

5 快適で信頼できるサービスの提供

評価基準	R4年度実績	R5年度実績	前年比
常勤職員に占める有資格者数（司書）	88.2%	88.2%	→
司書資格新規取得者数	0人	0人	→
研修への参加回数	15回	15回	→
研修の受講者数	19人	25人	↗
図書館協議会開催数	4回	4回	→

自己評価

・司書資格新規取得者はなく、常勤職員全体に占める有資格者数（司書）は前年度同様となりました。内訳は、正規職員が8人中7人、会計年度任用職員(週5日勤務)が9人中8人となります。

・昨年度に引続き積極的な参加に努めました。参加した研修の内容は次ページのとおりです。

・図書館協議会は、3回の会議及び飯能市立中央図書館への視察研修を実施しました。地元の西川材を使用した開放的な建物の中に、飲食可能なロビー、ゆったりとした設えの社会人向け学習室・読書席、機能的な学習席などが効果的に配置されていました。また、図書館友の会(ボランティア)のメンバーに館内を案内していただき、ボランティアとの協働による運営の一端に直接触れることができました。

## 令和5年度参加研修一覧

- ・ これからの図書館と経営戦略／講師：小泉公乃氏（筑波大学図書館情報メディア系准教授）
- ・ 読書から誰一人とりのこされないために／講師：野口武悟氏（専修大学文学部教授）
- ・ 2023年度障害者サービス担当職員養成講座（初級）
- ・ 関東地区公共図書館協議会総会及び研究発表大会
  - （1） 基調講演 「図書館が地域アーカイブ機関であること」  
講師 東京大学名誉教授 根本 彰 氏
  - （2） 事例 発表①「山梨ふるさと記憶遺産プロジェクトについて」  
発表者：山梨県教育庁生涯学習課 主幹・社会教育主事 辻 由樹 氏、技師佐久間 絵梨 氏
  - （3） 事例発表②「ウィキペディアを活用した地域の記録発信の試み」  
発表者：北杜市図書館 高野 裕子 氏、 細田 恵子 氏
  - （4） 事例 発表③ 「公民館を拠点とした地域住民による区誌制作の取り組み  
～図書館と連携した地域資料のデジタル化事業を核として～」  
発表者：駒ヶ根市立 東伊那公民館 館 長 春日 由紀夫 氏
  - （5） 事例発表④ 「 図書館資料を保存するー その意義と進め方」  
発表者：東京都立中央図書館 資料保全専門員 眞野 節雄 氏
  - （6） シンポジウム  
「地域の記憶をどのように守り、残していくのか」コーディネーター：根本彰 氏  
シンポジスト：事例発表者
- ・ 第17回「家の光読書ボランティアスキルアップ講座」  
新しい読書推進のカタチ 田口 幹人 氏  
絵本を共有するコミュニケーション 圓山 哲哉氏  
子どもたちに”おはなし”の魅力を伝える 近江八幡おはなし研究会
- ・ 第20回「家の光読書ボランティア養成講座」  
はじめてみよう読書ボランティア 村中 李衣 氏  
魅力いっぱい！パネルシアター 松家 まきこ 氏  
レットトライ読み聞かせ 読書ボランティアグループ「ループ」
- ・ 読書のバリアフリーを進めるために
  - I. ICTを用いた読み書きサポートの可能性と課題  
～学校・家庭でタブレット端末を活用する～  
東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター 特任助教 平林ルミ氏  
グループウェア Page 1 of 3
  - II. 外国にルーツのある子どもたちの言葉と読書を支える  
よこはまライブラリーフレンド 加藤佳代 氏
  - III. 国際子ども図書館の障害者向け資料とサービス  
国立国会図書館国際子ども図書館職員

・図書館員・音訳者のための著作権セミナー

「あなたの著作権知識のチェック」

東泰江 氏・村林麻紀 氏（日本図書館協会障害者サービス委員会関西小委員会委員）

「著作権法の考え方とその概要」 森下元文 氏（文化庁著作権課課長補佐）

「音訳ボランティアに必要な著作権法条文とその解説」

小原亜実子 氏 大阪府立中之島図書館、日本図書館協会障害者サービス委員会関西小委員会委員

日本図書館協会認定司書第 1156 号

「政令指定グループへの登録及び国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスのデータ提供を考えている方のために、国立国会図書館障害者用資料検索（みなサーチ）の紹介」

杉田正幸 氏（国立国会図書館関西館、日本図書館協会障害者サービス委員会関西小委員会委員長、

日本図書館協会認定司書第 1138 号

「生駒やまびこの活動紹介（サートラス登録と国会図書館へのデータ提供及びグループの音訳活動等の紹介）」 齋藤皓 氏（生駒やまびこ）

「あなたの著作権知識のチェック」回答等"

・学校教職員ハラスメント対策委員会相談員向け研修

・ブックスタート全国研修会

・茨城県図書館協会ステップアップ研修会

「図書館空間を演出する～掲示物を演出する～」講師：空間演出コンサルタント 尼川ゆら 氏

・茨城県図書館協会第一回県南地区部会研修

「公共図書館に求められる学校図書館支援とは～高校図書館事例を中心に～」/講師：勝山万里子 氏

・茨城県図書館協会・茨城県図書館協会県南地区部会研修

「実践型接遇研修（入門編）」講師：キハラ株式会社 加納尚樹 氏

・茨城県図書館協会第二回県南地区部会研修

「ことばの獲得過程から見る、文法の普遍性」一読み聞かせの効用一/講師：北原博雄 氏(玉川大学文学部教授)

・令和 5 年度第 5 回山梨県図書館職員専門研修（令和 5 年度第 2 回地域資料研究部会研修会）

【参考】

内部研修（4回 115人）

・スマホ操作における利用者説明の実践

OPAC パスワードの登録方法等、電子図書館の使い方初級講座

・分類・排架の基礎と資料の基本的な取扱い方

・ハラスメントのない職場づくりとアンコンシャス・バイアス

・カスタマーハラスメントと初期対応

\* 図書館職員が講師となり、会計年度任用職員に対して実施したもの。